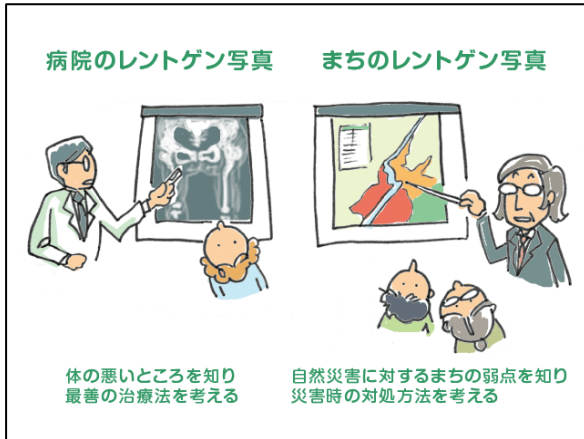


はじめに

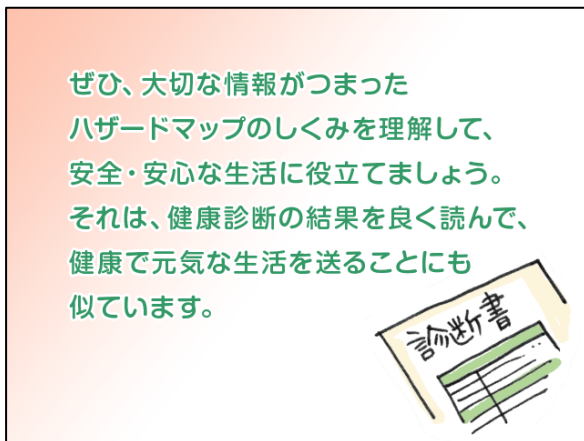
ハザードマップは「あなたを自然災害から守るための、まちのレントゲン写真」。



ハザードマップとは

ハザードマップは、地方公共団体によって法律に基づき作成され、公表されている。

ハザードマップは、さまざまな自然災害に対し、「まちの弱点」を教えてくれる、いわば「まちのレントゲン写真」といえる。



「ハザードマップを確認する」とは

- ①ハザードマップの成り立ちや、どのような情報が記載されているかを知ることが重要。
- ②ハザードマップを活用し、「万一の自然災害に備えてどう対処すべきか」を考えてみる。



さまざまな災害の危険

生活している場所により、「どんな自然災害に注意すべきか」という点は大きく異なる。

その地域で想定される災害に合わせて、多種多様なハザードマップが作成されている。

MEMO

私達の住む日本には、さまざまな災害の危険が。ハザードマップの種類も多種多様。

混同しやすい災害①【高潮・津波】

高潮と津波では、起こり方も破壊力も全く異なる。



【高潮】

気圧が下がった結果、海面が上昇したり、強風などによって波が堤防を越えること。

【津波】

地震等により起こる、非常に強くて大きな波のこと。

混同しやすい災害②【土石流・地滑り・がけ崩れ】



【土石流】

長雨や集中豪雨のために、石や土砂が時速20km～30kmで一気に滑り降りる現象。

【地滑り】

速度は遅いが、広い範囲で土砂が滑り降りる現象。長期にわたって危険が続く。

【がけ崩れ】

雨や地震により、急に斜面が崩れ落ちる現象。突然起きるため、死者の割合も高い。

混同しやすい災害③【外水氾濫・内水氾濫】



【外水氾濫】

川の堤防が壊れたり溢れたりすることで起き、被害が非常に大きい。

【内水氾濫】

排水路などの水が川に流れ込まず、溢れる現象。外水氾濫より発生頻度は高いとされる。

MEMO